

部分分数への展開

1. 多項式 $P(x), Q(x)$ による有理式 $R(x) = P(x)/Q(x)$ の積分を求めるには、部分分数展開を用いる。その手順を以下に示す。
2. $P(x)$ の次数が $Q(x)$ の次数と等しいか大きければ、式の割り算を実行する。

$R(x) = P(x)/Q(x) = S(x) + \hat{P}(x)/Q(x)$ となる。ただし、 $\hat{P}(x)$ の次数は $Q(x)$ の次数より小さい。

3. 定理：

複素数までの範囲で、 $Q(x) = (x - \alpha_1)^{m_1} (x - \alpha_2)^{m_2} \cdots (x - \alpha_k)^{m_k}$ と書ける。

($Q(x)$ を因数分解。)

4. 定理：

$$\begin{aligned} \frac{\hat{P}(x)}{Q(x)} &= \frac{C_{11}}{(x - \alpha_1)} + \frac{C_{12}}{(x - \alpha_1)^2} + \frac{C_{13}}{(x - \alpha_1)^3} + \cdots + \frac{C_{1m_1}}{(x - \alpha_1)^{m_1}} \\ &\quad + \frac{C_{21}}{(x - \alpha_2)} + \frac{C_{22}}{(x - \alpha_2)^2} + \frac{C_{23}}{(x - \alpha_2)^3} + \cdots + \frac{C_{2m_2}}{(x - \alpha_2)^{m_2}} \\ &\quad + \cdots \\ &\quad + \frac{C_{k1}}{(x - \alpha_k)} + \frac{C_{k2}}{(x - \alpha_k)^2} + \frac{C_{k3}}{(x - \alpha_k)^3} + \cdots + \frac{C_{km_k}}{(x - \alpha_k)^{m_k}} \\ &= \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^{m_i} \frac{C_{ij}}{(x - \alpha_i)^j} \end{aligned}$$

となる C_{ij} が存在する。

5. α_1 に注目し

$$Q(x) = q_1(x) \cdot (x - \alpha_1)^{m_1}, \quad q_1(\alpha_1) \neq 0$$

とする。

6. $\hat{P}(x) - \frac{\hat{P}(\alpha_1)}{q_1(\alpha_1)} q_1(x)$ を作ると、 $\hat{P}(\alpha_1) - \frac{\hat{P}(\alpha_1)}{q_1(\alpha_1)} q_1(\alpha_1) = 0$ となるから、 $(x - \alpha_1)$ で割り

切れる。すなわち $\hat{P}(x) = \frac{\hat{P}(\alpha_1)}{q_1(\alpha_1)} q_1(x) + p_1(x)(x - \alpha_1)$ 。

7. 以上をまとめると

$$\begin{aligned}\frac{\hat{P}(x)}{Q(x)} &= \frac{\hat{P}(x)}{q_1(x) \cdot (x-\alpha_1)^{m_1}} = \frac{\hat{P}(\alpha_1)}{q_1(\alpha_1)} \frac{1}{(x-\alpha_1)^{m_1}} + \frac{p_1(x)}{q_1(x) \cdot (x-\alpha_1)^{m_1-1}} \\ &= \frac{C_{1m_1}}{(x-\alpha_1)^{m_1}} + \frac{p_1(x)}{q_1(x) \cdot (x-\alpha_1)^{m_1-1}}\end{aligned}$$

8. 右辺第二項 $\frac{p_1(x)}{q_1(x)(x-\alpha_1)^{m_1-1}}$ に対して, ふたたび 5 および 6 の手順が適用可能である.

すなわち $Q_1(x) = q_1(x)(x-\alpha_1)^{m_1-1}$ とおけば,

$$\begin{aligned}\frac{\hat{P}(x)}{Q(x)} &= \frac{C_{1m_1}}{(x-\alpha_1)^{m_1}} + \frac{p_1(x)}{q_1(x)(x-\alpha_1)^{m_1-1}} \\ &= \frac{C_{1m_1}}{(x-\alpha_1)^{m_1}} + \frac{C_{1m_1-1}}{(x-\alpha_1)^{m_1-1}} + \frac{p_2(x)}{q_1(x)(x-\alpha_1)^{m_1-2}}\end{aligned}$$

9. この作業をつづけると

$$\frac{\hat{P}(x)}{Q(x)} = \frac{C_{1m_1}}{(x-\alpha_1)^{m_1}} + \frac{C_{1m_1-1}}{(x-\alpha_1)^{m_1-1}} + \cdots + \frac{C_{11}}{(x-\alpha_1)} + \frac{p_{m_1}(x)}{q_1(x)}$$

を得る.

10. $Q(x) = (x-\alpha_1)^{m_1}(x-\alpha_2)^{m_2} \cdots (x-\alpha_k)^{m_k}$ および $Q(x) = q_1(x) \cdot (x-\alpha_1)^{m_1}$ だから

$q_1(x) = q_2(x) \cdot (x-\alpha_2)^{m_2}$ と書ける. そこで

$$\frac{p_{m_1}(x)}{q_1(x)} = \frac{p_{m_1}(x)}{(x-\alpha_2)^{m_2} q_2(x)}$$

に対して全く同様の手順で計算すれば

$$\frac{p_{m_1}(x)}{q_1(x)} = \frac{C_{2m_2}}{(x-\alpha_2)^{m_2}} + \frac{C_{2m_2-1}}{(x-\alpha_2)^{m_2-1}} + \cdots + \frac{C_{21}}{(x-\alpha_2)} + \frac{p_{m_2}(x)}{q_2(x)}$$

11. こうして全ての因子 $(x-\alpha_1), (x-\alpha_2), \dots, (x-\alpha_k)$ についての作業を完了すれば 4 の定理が証明される.